　情報の重要性は古くから訴えられており、今さら説くことではないでしょう。ビジネス上の課題もその解決策も、事業拡大のヒントもお客様のニーズも、多くは社内の情報から見つけ出すことができます。

　この情報の重要性に着目し、戦略的情報システムが構築されたのは1980年代のことです。しかし、まだこのころの情報は一部管理部門や経営層の閲覧に限られ、主に意志決定に活用されていました。

　この閉ざされた情報がオープン化され、一般社員の情報武装化が進んだのは、パソコンとネットワークの普及した1990年代の後半のことです。営業や企画の最前線にいる社員が、基幹システムの情報をパソコンにダウンロードし、自在に集計・分析。情報の価値を一気に高めることができるようになりました。

情報のオープン化とともに、共有が進み、分散されることになります。